

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

- ◇メビック扇町 クリエイティブビジネスマッチング 開催 3/16
－PVC Design Award の紹介と PVCnext によるクリエイター募集交流会－

■ [随想](#)

- ◇小笠原紀行（その1）－小笠原と世界自然遺産－

上智大学 地球環境学研究科 織 朱實

■ [編集後記](#)

■ トピックス

- ◇メビック扇町 クリエイティブビジネスマッチング 開催 3/16
－PVC Design Award の紹介と PVCnext によるクリエイター募集交流会－

[メビック扇町（メビック）](#)は、公益財団法人大阪市都市型産業振興センターが運営するクリエイター支援施設で、大阪で活動するクリエイターの方々が互いに知り合い、顔の見える関係を築くための新しいコミュニティづくりと大阪に集積するクリエイティブ関連企業の活性化に取り組んでおられます。PVC Design Award事務局は、以前からAward作品展示会の大阪会場として施設をお借りするなど大変お世話になっていましたが、今年もPVC Design Award 2015 を開催するに当たり、メビックからクリエイター達に対してアワードの紹介と、大阪の塩ビ加工企業を中心とする団体PVCnextとクリエイター達との出会いの場を作り交流と協働を図ってはどうかとの提案を受けたことから、メビックの持つプログラム「[クリエイター募集プレゼンテーション](#)」に参加し、クリエイターの方々との交流を図りました。



PVC Design Award としては、これまで以上に多くのデザイナー・クリエイターの方々に PVC の特性を知っていただきたいことと作品を応募いただきたいという思いがあり、また、PVCnext については、会員企業が抱える新しい製品づくりや製品の高付加価値化の課題に対してクリエイターの方々のお力をお借りしたいとの要求が背景にあります。

当日は、クリエイターの方々25名に参加いただき、塩ビ業界からは PVCnext の会員、西日本プラスチック製品加工協同組合、関西ビニール卸協同組合、素材メーカーの方々、またファッション業界の上田安子服飾専門学校（上田学園）の関係者の方々が参加され、メビックの方も含め45名に参加頂きました。

プレゼンテーションは、アワード事務局を代表して VEC がアワードの趣旨説明やこれまでの4回の受賞作品の紹介を行い、続いて、PVCnext の河野修一郎代表幹事（(株)河野プラテック代表）が上田学園との異業種交流の取り組みと、ここから生まれた PVC 作品の紹介、Award 受賞作品の紹介、PVCnext ブランドでの製品化状況などをホームページや写真

で紹介し、その後、PVCnext 会員企業 3 社、黒木義明氏（クロキ INC 代表）、三原健一郎氏（三泉工業(株) 代表）、森川良一氏（SUNBOOT 代表）がそれぞれアワードでの受賞作品を通して自社の紹介と技術の紹介を行いました。

プレゼン終了後は、軽い立食形式で、展示したこれまでのアワード入賞作品や PVCnext の製品を取り囲みでの交流会が始まり、PVCnext はクリエイターの方から PVC の特性や加工方法について多くの質問を受けていました。クリエイター方々の中には PVC で制作したいデザイン案を持って来られ具体的な相談をされる方や、素材や展示品を見て、この場で案が浮かんだのでアワードに応募したいと言われる方もおられ、事務局も勇気づけられました。



午後 6 時半から始まったこの会も 9 時半まで続きお開きとなりましたが、クリエイターの方々はほぼ全員が終了まで残っていただき、PVC に強い関心を持たれている様子が伺えました。

メビック扇町では、月 1 回こうしたクリエイティブビジネスマッチングを開催しており、デザインの力による新しい製品作りや製品の高付加価値化、新事業創出などで、単なる取引先ではなく信頼関係を持った企業・人とのパートナー作りをされています。年間 200 件以上の成約があり、製品販売数も伸びているとのこと。在阪の企業の方は、是非活用されてはいかがでしょうか。

今年もデザイナー・クリエイター方々へのアワードの説明会を、下記のように名古屋、大阪、東京の順で実施します。当日は、これまでの受賞作品や素材を展示します。また、作品の試作等についてご相談に乗ります。詳細は[アワードHP（説明会案内）](#)を御覧ください。PVC Design Award 2015 にご興味のある方は是非参加お願い致します。

名古屋	4/22（水）	国際デザインセンター	18:00-20:00
大阪	4/23（木）	メビック扇町	18:00-20:00
東京	4/27（月）	VEC（住友六甲ビル 2F）	18:00-20:00

■ 随想

◇小笠原紀行（その 1）－小笠原と世界自然遺産－

上智大学 地球環境学研究科 織 朱實

イタリアから帰国し、新しい大学にうつり、それとほぼ同時くらいに小笠原の環境問題にかかわるようになりました。小笠原は、世界遺産に登録されていることから「知っているけど、行ったことがない」とう人がほとんどです。そこで、あまり知られていない小笠原の魅力を、何回かに分けてご紹介したいと思います。

私が、最初に小笠原に行ったのは昨年 7 月、まさにイタリアに行く直前に、ゼミ合宿で訪問したのが初めてでした。本土から、南南東約 1,000km。太平洋上に点在する 30 余

の島々の総称が小笠原諸島。小笠原までの交通手段は、唯一「小笠原丸」。竹芝桟橋から、父島まで 25 時間。出港は、週に一回なので、小笠原のメインの島、父島に行くには最低一週間かかります（行きも帰りも、1泊2日、小笠原に5日滞在が最短）。小笠原諸島は、これだけ離れていても「東京都」で、走っている車も「品川ナンバー」なので、驚きます。

小笠原諸島が世界自然遺産登録されたのは、平成 23 年 6 月。日本の世界自然遺産としては、「屋久島」「白神山地」「知床」について、四番目です。登録の理由は、小笠原諸島が、今まで大陸とつながったことのない海洋島であることから、それぞれの島にたどり着いた生物が独自の進化を遂げ、特異な生態系を有していることが評価されたことです。特に、陸産貝類と維管束植物において並外れた高いレベルの固有率を示していることが高く評価されたのです（カタツムリなどの陸産貝類は、生息する 106 種のうち 100 種が固有種）。とはいえ、かたつむりは小さくて目立たない（地味ですよ）ため、かたつむりが遺産登録の重要な要素だったという事実は、小笠原に住んでいる人にもあまり知られてないようです。小笠原といえば、やはり青い海、南洋植物、いるかや鯨という海洋生物の印象が強く、そうした海や自然の美しさが世界自然遺産登録の理由と思う人が多いようです（実は私も最初そう思っていました）。

ところが、この固有種のかたつむり（小さいのは 2-3mm）が現在、絶滅の危機に瀕しているのです。人の生活に伴い増えてきたクマネズミが、無人島にもわたり、かたつむりを食い荒らしはじめています。無人島のため、気が付かないで絶滅しているかたつむりの固有種も多くあります（小笠原は、こうした意味でもとても脆弱な生態系なのです）。このクマネズミの被害を、どう食い止めるのか、ねずみ対策を含め外来種対策が現在の小笠原の大きな課題になっています。観光客が増えれば、どうしても外来種が持ち込まれてきてしまいます。島の経済と、脆弱な自然の保護のバランスをどのように図るかは、本当に難しい課題です。私の仕事は、ねずみ対策について（殺鼠剤の散布、ねずみとり等の手法について）、島民のみなさんと話し合いながら、より良い方向を目指していくための検討を行っていくことで、化学物質のリスクコミュニケーションをまさに実地で行っています。もっと、多くの人に、小笠原に関心を持ってもらいたいと思い、これから数回にわたり小笠原の美しい自然について写真等でご紹介していきたいと思えます。

まずは、小笠原といえば、ここ！と有名な東京都の天然記念物の「南島」です。この美しい島の生態系を保全するため上陸人数も 1 日ガイドの引率の下で、100 名と限定されています（天然記念物を足で踏むことができるというのは世界でも珍しいことだと思います）。

そして、写真は小笠原で 3 月にみられるザトウクジラです。3 月には、子供を連れた鯨があちらこちらで潮を吹いたり、



ホバーリングをしています。このホバーリングは、もちろん私たちに見せるためにしているのではなく、体の寄生虫を取るために行っているそうです。尾びれをパタパタしている様子は、「バイバイ！」しているみたいでかわいいですよ。私は、たまたまラッキーなことにすぐ近くでホバーリングをしている鯨を見ることができましたが、この水しぶきは 25 メートルプール 1 杯分だそうです。



今回は、無人島などあまり見ることができない写真なども紹介していきたいと思います。

■ 編集後記

先日、皆既月食がありましたね。位置的な条件としては、全国的に良かったようですが、あいにくのお天気で、見られた所は少なかったようですね。私も、雲を眺めていました。せっかくだったのに、赤銅色のうさぎさんに会えなくて残念でした。次の皆既月食は、3年後の1月31日とのことです。またね。今度は挨拶ぐらいさせてね。(漠)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.jp> ■E-MAIL info@vec.jp